

開講年度	令和 8 年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態内科学特別演習Ⅱ		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病、膵β細胞 (消化器内科学) 消化器病学、消化器内視鏡学、超音波医学 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器内科診断学 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (血液内科学) 同種造血幹細胞移植における免疫病態 (脳神経内科学) 多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体 (発達小児医学) 新生児、小児 (腫瘍内科学) がん		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、准教授 森田修平 (消化器内科学) 教授 北野雅之、准教授 井口幹崇、准教授 蘆田玲子、講師 井田良幸、講師 山下泰伸、講師 糸永昌弘、講師 田村 崇 (呼吸器内科学) 教授 山本信之、准教授 中西正典、准教授 洪 泰浩、講師 早田敦志 (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 谷本貴志、准教授 北端宏規、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹、講師 山野貴司、講師 柏木 学、講師 尾崎雄一、助教 太田慎吾、助教 樽谷 玲 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一、助教 中島悠里 (血液内科学) 教授 園木孝志、教授 蒸野寿紀、准教授 村田祥吾、准教授 細井裕樹 (脳神経内科学) 教授 宮本勝一、講師 中山宜昭 (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田 慈 (発達小児医学) 教授 徳原大介、准教授 島 友子、准教授 田村 彰、講師 末永智浩、講師 垣本信幸 (腫瘍内科学) 教授 山本信之、准教授 洪 泰浩、助教 堀 善和	
	薬		
授業の概要	糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。		

到達目標	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズム探求法を修得する。</p> <p>(消化器内科学) 消化器癌の発癌機構およびゲノム医療の最前線を高い知識レベルで理解する。消化器癌の発癌機構に関する基礎研究およびゲノム医療の臨床研究を立案・計画できる。</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患の成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解するとともに研究の基本となる臨床研究、基礎研究の手法を修得する。</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における最新の診断学の活用法について修得する。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病研究の動向と研究手法を修得する。</p> <p>(血液内科学) 同種造血幹細胞移植の免疫病態を理解し、実地臨床に応用する力を身につける。</p> <p>(脳神経内科学) 多発性硬化症などの難治性神経免疫疾患の病態の本質を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患における自己抗体の重要性を説明できる。</p> <p>(発達小児医学) 新生児・小児特有の疾患について原因と成立機序を理解し、解決すべき課題の研究に必要な生化学的・生理学的・組織学的実験技術を修得する。</p> <p>(腫瘍内科学) がんの成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解するとともに研究の基本となる臨床研究、基礎研究の手法を修得する。</p>
授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するためのin vivo/in vitro研究手法の習得および新知見の探求を行い、新規治療法の開発を目指す。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(消化器内科学) ①消化器癌の発癌機構とバイオマーカー、②消化器疾患におけるゲノム医療：消化器癌の発癌機構に関する概説的な講義を行い、基本的な実験手法の指導を行う。消化器癌のゲノム医療について学び、その理解を深める。(北野雅之/井口幹崇/蘆田玲子/井田良幸/山下泰伸/糸永昌弘/田村 崇)</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患研究における最近の動向：呼吸器疾患に関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。(山本信之/中西正典/洪泰浩/早田敦志)</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法の実践的演習：循環器疾患に関する生体内イメージングを用いた形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、CT/MRIを用いた非侵襲的画像診断法の最新の研究手法および成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。(田中 篤/谷本貴志/北端宏規/黒井章央/塩野泰紹/山野貴司/柏木 学/尾崎雄一/太田慎吾/樽谷 玲)</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病研究の最新の動向と研究方法：慢性腎臓病・透析医療における最新の論文を抄読・議論することで、最近の研究動向および新たな研究手法を学ぶとともに、結果の解釈法・発表方法について修得する。(荒木信一/中島悠理)</p>

授業計画	<p>(血液内科学) ①造血幹細胞の特徴と臨床応用(園木孝志/田村志宣)、②免疫不全下における感染症の診断と制御(園木孝志/村田祥吾/蒸野寿紀)、③移植片宿主病と移植片腫瘍効果の制御(園木孝志/細井裕樹/山下友佑):同種造血幹細胞移植における免疫病態を解析する手法とその解釈法を取得する。同種造血幹細胞移植成績を向上させるための課題を抽出し、その解決法を考察する。(園木孝志/蒸野寿紀/村田祥吾/細井裕樹)</p> <p>(脳神経内科学) ①神経免疫疾患研究の最新の動向、②神経免疫疾患の神経化学的・分子生物学的解析手法:多発性硬化症・ギランバレー症候群・重症筋無力症など難治性神経免疫疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経免疫疾患の病態に関する理解を深める。(宮本勝一/中山宜昭)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 全身性エリテマトーデス(岩田が担当)や関節リウマチ(藤井が担当)などの全身性自己免疫疾患における抗核抗体や自己抗体検査が、その疾患の診断や活動性の評価、予後予測にいかに関与しているのか解説する。またその測定法と結果の解釈に関する問題点も示す。(藤井隆夫/岩田 慈)</p> <p>(発達小児医学) 新生児・小児疾患の原因と成立機序の理解と、課題に対する研究技術修得:発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の病的状態に関して、形態学的、機能的な観点から講義を行うとともに、生化学的、生理学的、組織学的手法を用いて解説する。また、発達・成熟の過程で生じる特有の病的状態に関して最新の文献の抄読と討論を行い、疾患の原因、成立機序について理解を深める。さらに、解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究に必要な生化学的、生理学的、組織学的実験技術を修得する。(徳原大介/島 友子/田村 彰/末永智浩/垣本信幸)</p> <p>(腫瘍内科学) がん薬物療法研究における最新の動向:がんに関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。(山本信之/洪 泰浩/堀 善和)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書

(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。

(消化器内科学) 特に指定しない。

(呼吸器内科学) 特に指定しない。

(循環器内科学) 特に指定しない。

(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。

(血液内科学) 特に指定しない。

(脳神経内科学)

**【教科書】** 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。

(リウマチ・膠原病科学)

**【参考書】** 「リウマチ病学テキスト 第3版」

編集：日本リウマチ財団教育研修委員会・日本リウマチ学会生涯教育委員会

出版社：南江堂

(発達小児医学) 特に指定しない。

(腫瘍内科学) 特に指定しない。